

# 少子化対策に挑戦する市町村バックアップ事業概要について

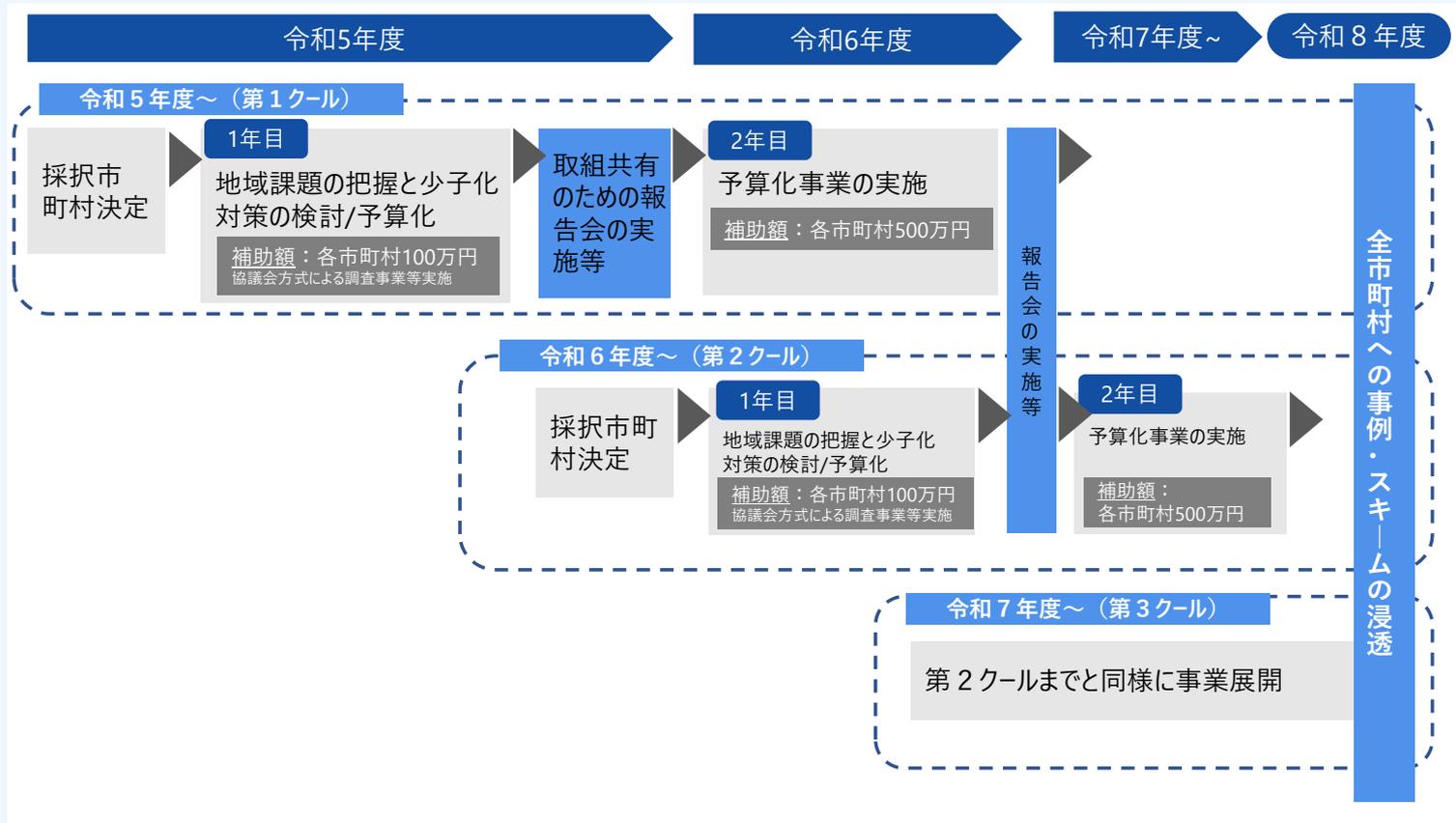
## 実施体制

国、専門家、委託事業者とも連携することで、県や市町村だけでは不足しているリソースやノウハウをカバーできるバックアップ体制を構築

実施体制図

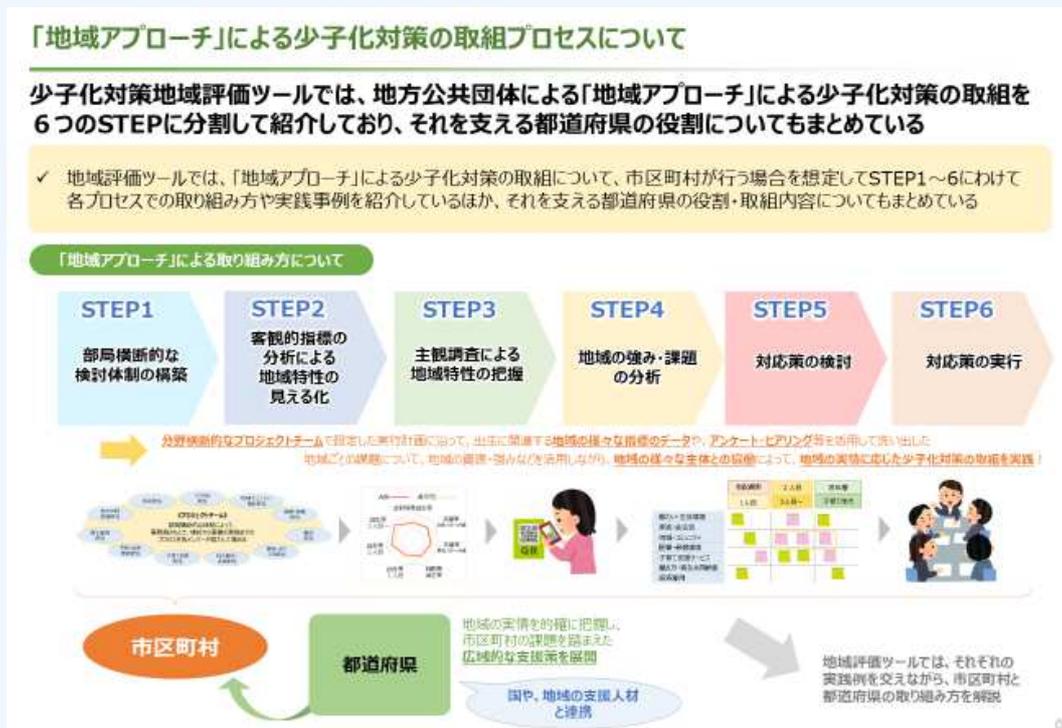


1クール(2年間の伴走支援) × 3クールで実施し、県全域への事例・スキームの浸透を目指す

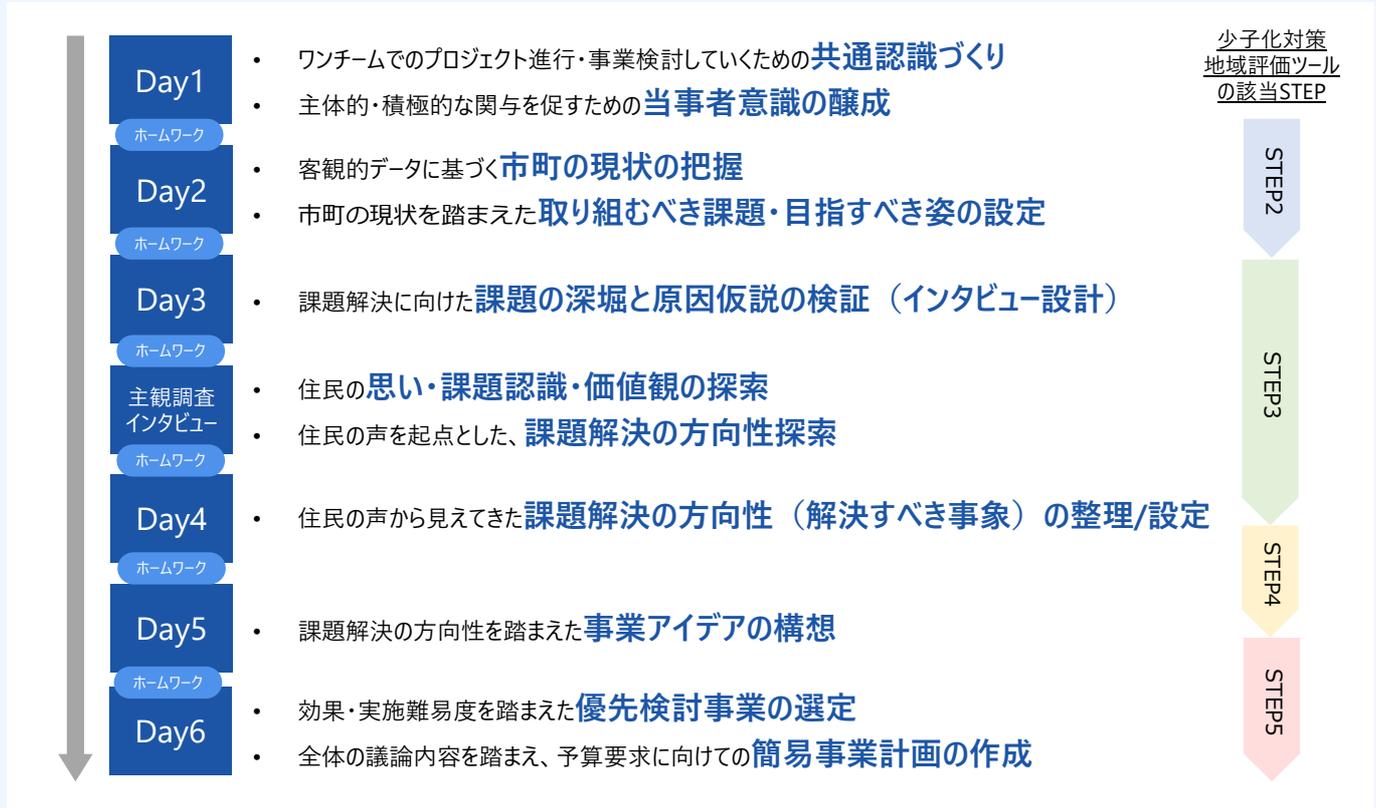


## 検討フローの考え方

事業検討は国の「少子化対策地域評価ツール」を活用し、予算化にあたっては、地域少子化対策重点推進交付金等の充当も踏まえた検討を実施

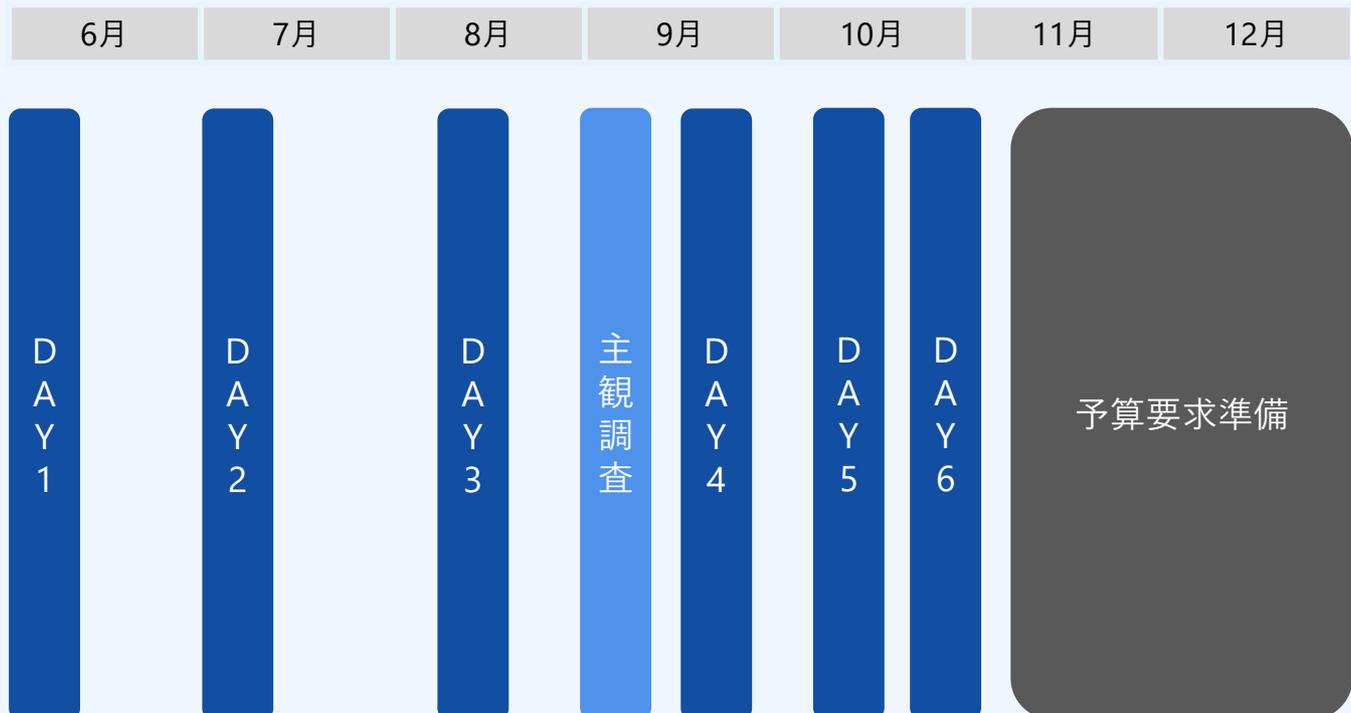


## 計6日のワークショップと、ホームワーク、インタビュー調査を実施



## ワークショップスケジュール（令和5年度（第1クール））

※令和6年度（第2クール）以降はスケジュール前倒しで実施



Day2のゴール

- 客観的データに基づく**市町の現状の把握**
- 市町の現状を踏まえた**取り組むべき課題・市町村の目指すべき姿の設定**

ワーク内容

ホームワーク

地域指標に基づいた地域特徴・課題仮説・現状の取り組みの整理

少子化対策イシューマップの作成

取り組むべき課題と探索の問いの設定

少子化対策地域評価ツールにおける客観的指標をもとに、各分野の地域特徴・課題仮説・取り組み状況を整理する。



ホームワークで各市町村整理してきた情報のうち、地域課題に関する項目を付箋に記入し「少子化対策イシューマップ」に配置する。そのイシューマップ全体を俯瞰しながら、関係する項目のあいだに矢印を引き、それぞれの相互関係を整理することで、各市町村の少子化という課題がどのように連鎖しているか、少子化対策地域評価ツールの客観的指標がそれぞれどのようにつながっているのかを構造的に把握する。

完成した「イシューマップ」を見て、現在の取り組みの有無や客観的指標から見える深刻さ、結び付く課題の多さなどをもとに、各市町村として取り上げたい、解決したいと考える起点となる課題を選定する。

Point

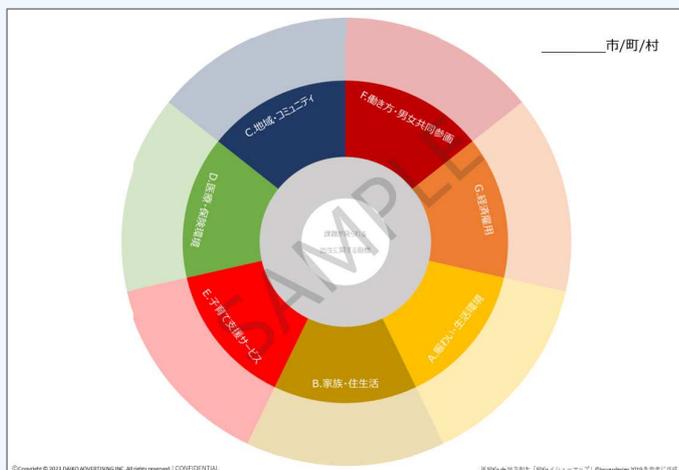
- 地域指標を別々でとらえるのではなく、その**つながり/連鎖性を意識しながら構造化**することで、市町村の課題・現状を精緻に把握する
- イシューマップをもとに着目する課題を**早い段階で意志をもって決める**ことで、課題の探索に時間を使う(着目はしなかったが顕在化している地域課題については各市町独自で対策を検討)

(参考) 少子化対策イシューマップ概要

「少子化対策イシューマップ」とは...

少子化対策地域評価ツールの客観的指標に定められている、「出生に関する指標」「地域指標（「賑わい・生活環境」「家族・住生活」「地域・コミュニティ」「医療・保険適用」「子育て支援サービス」「働き方・男女共同参画」「経済雇用）」を関連性の高いもの同士が近くなるよう円状に並び替えたマップ。

※SDGs de 地方創生「SDGs イシューマップ」©issue+design 2019 を参考に株式会社大広で作成



「出生に関する指標課題」を赤色、「地域指標課題」を黄色、「地域指標課題の結果起こる、住民の「課題や欲求」」を青色の付箋で配置し、それぞれのつながりを整理することで、地域課題を構造的に可視化できる。



主観調査  
インタビューのゴール

- 住民の**思い・課題認識・価値観の探索**
- 住民の声を起点とした、**課題解決の方向性探索**

ワーク内容

設計に基づいたインタビューフローの作成

Day 2 で整理した課題を踏まえDay3で検討した調査設計に基づき、どのような順番・時間配分・内容で、インタビューを実施するかフローを作成。  
結婚観や子育て観など場合によっては、センシティブな内容になるため、住民の方へ最大限配慮しつつ、聞き出したいことを引き出せるフローを検討。

住民インタビューの実施

各市町の調査設計・インタビューフローに基づいて住民インタビューを実施。住民の方へ寄り添い、生活の実態や価値観などを聞きながら、結婚や子育てに関する思いや課題・不満など本音を引き出すため、モデレーターは業務委託。  
5市町で**計54名**へインタビュー

発言録、インタビューサマリーの作成

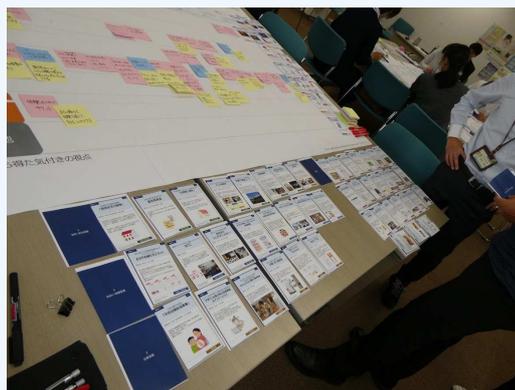
インタビュー発言をすべて文字に起こした発言録とインタビュー内容の中心的な発言をまとめたインタビューサマリーを作成。その後のワークショップに活用。



Point

- モデレーター（インタビュー司会者）は住民の皆さんの味方である姿勢を貫き、**日々抱えている本音を話しやすい場づくり・雰囲気づくり**を行う
- 市町に対する評価・要望だけでなく、**住民一人ひとりの生活（子育て）の様子や結婚や子育てに対する価値観/理想像など語りを重視し聞き出すことで本当に求めていることを考察する示唆**を得る





最終事業案 (Day5)

住民の声から見えてきた解決課題  
(対応策の方向性)

子育て支援拠点の充実

開発した事業案

子育て支援拠点の充実

児童館の利便性向上

住民の声から見えてきた解決課題  
(対応策の方向性)

必要なときに必要な情報  
だけが届く仕組み作り

開発した事業案

子育てアプリ

住民の声から見えてきた解決課題  
(対応策の方向性)

子育て世帯でも働きやすい  
職場とのマッチングの提供

開発した事業案

子育て応援企業の紹介

マザーズハローワーク  
出張相談会

ワークwithチャイルド  
(子連れ出勤)

令和6年度  
予算要求事業

今後予算要求  
予定の事業

継続して検討  
する事業



